



居住地校交流だより



令和7年10月15日発行<前期号>

障害のある子どもたちと障害のない子どもたちが共に活動する機会を通して、互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶことができるように、国、県と共に交流及び共同学習を推進しています。

本校でも、児童生徒が自分の住んでいる地区の学校を訪問し、居住地校交流を行っています。前期は、小学部9名の児童が交流を行いました。前期に実施した交流の様子を紹介いたします。



長木小学校 2年生

体育で、水泳を行いました。列車ごっこや、輪くぐりなどを楽しみました。



山瀬小学校 3年生

体育で、ボールを使っての当てやシュートゲームをして、盛り上がりました。



城西小学校 5年生

図工で、クレヨンを使って、いくつかの描き方で花火を表現する活動を楽しみました。

保護者の方の感想

プール遊びだったので、とても楽しそうでした。お友達の「こっちだよ」の声に反応してついて入ったり、少し「待つ」ができていたりして、すごいなと思いました。



好きなボール遊びの交流で、笑顔で楽しく活動できていました。お友達もフォローしてくれたり、たくさん声を掛けてくれたりして、私もうれしく思いました。



相手校の子どもたちが、どうサポートしたら良いのか、どういう風に声を掛けたら伝わるのか、自分たちなりに考えて行動してくれていたの、とても有意義な交流会でした。



交流校の先生からの感想

プールが終わった後に、「もっと一緒に授業がしたい！」「来年まで待てない！」との声がたくさんあがりました。事前に設置してくださった比内支援学校のパネルは、交流学年以外の児童も見っていました。

昨年度も交流があったので、最初から打ち解けた様子でした。ゲストティーチャー(事前学習)で教わった3つのポイント「名前をよぶ」「えがお」「あったかことば」に気を付けて接していました。

これまで何度も交流していたこともあり、名前と呼んでいたのが自然だったと感じました。交流の後の見送りでは、「またね～！」とハイタッチをしていた姿もあり、楽しめたことが伝わりました。

ゲストティーチャーについて



居住地校交流を行う前に、本校職員が交流校を訪問し、出前授業を行っています。(写真：令和7年6月 長木小学校にて)

ゲストティーチャーでは、比内支援学校について(支援学校にはどのような工夫があるのか、学習や行事の様子、交流する児童生徒の頑張っていること等)や仲良く交流するためのコツ(笑顔・ふわふわ言葉※等)について講話をします。また、友達を思いやって言葉を掛けられるように、簡単なゲームを通して話し方やふわふわ言葉で声を掛ける練習を行っています。

※ふわふわ言葉とは、誘う・励ます・ほめる・安心させる言葉等、相手の心をあたためる言葉です。